

今月の



隣に伝えたい

新たな言葉と概念

【FIM】

【英】 Functional Independence Measure

【和】 機能的自立度評価表

【類】 Barthel index

【用語の解説】

FIM とは、1983年に Granger らによって開発された ADL 評価法。特に介護負担度の評価が可能であり、ADL 評価の中でも最も信頼性と妥当性があると言われている。

評価の内容は、食事や移動などの「運動 ADL」13項目と「認知 ADL」5項目からなり1点が介護時間1.6分と設定されていて、110点で介護時間0分となる。また1週間以内に FIM 得点が10点以上低下するような状態を、急性増悪とみなせる。

FIM の特徴としては、1. どの疾患にも適応できる。2. 実際に「している」ADL を評価することで介助量を測定できる。3. 生活を営んでいくために必要最小限の項目を把握するために用いられる。4. 対象年齢は7歳以上になる。などである。

以下に、評価項目と評価基準について記す。

1. 運動項目について

- 1) セルフケアの状態（6項目）：食事動作、清拭・入浴動作、更衣（上半身）、更衣（下半身）、トイレ動作
- 2) 排泄（2項目）：排尿コントロール、排便コントロール
- 3) 移乗（3項目）：ベッド・イス・車椅子、トイレ、浴槽・シャワー
- 4) 移動（2項目）：歩行・車椅子、階段

※採点の基準

点数	介助者	手助け	手助けの程度
7	不要	不要	自立
6	不要	不要	時間がかかる。装具や自助具が必要。投薬している。安全性の配慮が必要。
5	必要	不要	監視・準備・指示・促しが必要
4	必要	必要	75%以上自分で行う。
3	必要	必要	50%以上75%未満自分で行う
2	必要	必要	25%以上50%未満自分で行う。
1	必要	必要	25%未満しか自分で行わない。

7・6点：一人でできる

5～1点：何らかの監視や介助が必要

2. 認知項目について

- 1) コミュニケーション（2項目）：理解（聴覚・視覚）、表出（音声・非音声）
- 2) 社会認識（3項目）：社会的交流、問題解決、記憶

※採点の基準

点数	介助者	手助け	手助けの程度
7	不要	不要	自立
6	不要	不要	時間がかかる。投薬している。安全性の配慮が必要。
5	必要	不要	監視・準備・指示・促しが必要
4	必要	必要	75%以上自分で行う。
3	必要	必要	50%以上75%未満自分で行う
2	必要	必要	25%以上50%未満自分で行う。
1	必要	必要	25%未満しか自分で行わない。

7・6点：一人でできる

5～1点：何らかの監視や介助が必要

採点のポイント：各項目の採点に際しては、それぞれポイントが示されている。例えば、入浴については、・体を洗い、乾かすことが自立している：7点・時間がかかる、自助具を使用している：6点・介助、監視、準備が必要：1～5点（準備の例5点の場合：温度調節する、石鹸をタオルにつける、タオルを絞るなどに介助を要する、4点以下は省略）

以下、詳細については成書を参照のこと。

引用：FIM による評価マニュアル 慶應義塾大学月ヶ瀬リハビリテーションセンター

（国立病院機構新潟病院 作業療法士長 服部 正治）

本誌27pに記載